「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」
平成30年度　柳津町立会津柳津学園中学校

学校だより

平成31年2月22日(金)発行　第　42　号　発行責任者:髙橋　弘悦

３年生に学ぶ会



１５日、３年生に学ぶ会を開催しました。これは、卒業を間近に控えた３年生から、中学校生活のアドバイスをしてもらうというものです。１、２年生は、学校生活への取り組み方、勉強の仕方、入試の仕組み、勉強の仕方など、多岐にわたるアドバイスをもらい、進級後の生活に向けて、心を引き締めていました。

３年生からは、次年度から福島県の入試制度が大きく変わることを踏まえ、授業を大切にすること、勉強の習慣をつけること、委員会活動や部活動に積極的に取り組むこと、などが自身の反省を踏まえてアドバイスがなされました。

話を聞いた直後は、納得し、やる気も出るものです。でも、その感動が新鮮な内に実践に移していかないとその効果も半減します。１，２年生の皆さんには、３年生の姿を目の当たりにできる今のうちに、生活を見直して欲しいと思います。

からだとこころの授業



１９日、２年生で「からだとこころの授業」を行いました。「命や愛情について考える。自分の気持ちを整理し、落ち着いた生活を送る方法を知る。」という二つのねらいを持って行ったものです。

講師として、町保健師さんの後藤さん、ＳＣの高梨先生をお迎えし、担任と養護教諭による授業です。

保健師の後藤さんから「妊娠と出産・子育て」につい

てお話しをいただいた後、妊婦体験、赤ちゃん人形体験、その後高梨先生からこころの授業をしていただきました。

授業を貫く考え方は、自分がかけがえのないものであること、そして命の大切さです。

先日、『未来のミライ』が第９１回アカデミー賞の長編アニメーション映画賞を受賞したことが報じられていましたが、この映画も今回の授業とテーマが近いものがあります。この機会にもう一度自分を見つめて欲しいと思います。



授業で朗読された詩を紹介します。

シッポのちぎれたメダカ

やなせ　たかし

まだとても　ちいさいとき
はじめてぼくが　愛したのは
シッポのちぎれたメダカだった

牛乳ビンの中で　飼っていた
シッポのちぎれた　かわいいメダカ
とてもおかしな顔をしていた

ボクをみると　うれしそうに
ちぎれたシッポを　ふっていたんだ

でも　ある雨のふる朝に
メダカはだまって　死んでしまった
ぼくは　ひどく　かなしかった
涙がこぼれて　とまらなかった

おとなはみんな　おおわらいした
メダカはいっぱいおよいでいる
かわりのメダカは　すぐにみつかるさ

泣きながら　ボクはおもった
「かわりのメダカは　いないんだ
シッポのちぎれた　おかしな顔の
あのメダカでなくちゃ　いけないんだ
どんなにたくさんメダカがいても
ぼくの愛したのは一匹しかいない」



お知らせ

報道によりますと、携帯電話やスマートフォンの小中学校への持ち込みを原則禁止した文科省通知を見直す方向で検討が始まったようです。

本校では、ＳＮＳによる事件の報道が後を絶たないことから、当面現在の持ち込み原則禁止の方針を継続して参ります。また、福島県教委では、教職員との個人的なメール、ＳＮＳでのやりとりも原則禁止としております。ご承知おきください。